

# みなみたね議会だより（特別号）【馬毛島移設問題調査特別委員会報告】

発行 令和2年12月1日

発行責任者 南種子町議会議長 広浜喜一郎・編集 南種子町馬毛島移設問題調査特別委員会  
議会広報編集委員会

令和2年10月22日に「馬毛島における施設整備」について、防衛省から町議会に対して説明がありました。

町議会の『馬毛島移設問題調査特別委員会』は、公平・中立な立場で町民に情報を発信することを目的に設置されております。今後、騒音調査や不明な点等について調査し、町民に情報提供したいと考えています。

今回は、防衛省から説明を受けた内容についての報告をいたします。

【この資料は、防衛省提供の資料を抜粋したものです。】

## 1 わが国を取り巻く安全保障環境について

わが国周辺には、質・量に優れた軍事力を有する国家が集中し、軍事活動の活発化が顕著となっている。

### (1) 中国による軍事力の広範かつ急速な変化

透明性を欠いたまま、継続的に高い水準で国防費を増加させ、軍事力の質・量を広範かつ急速に強化しつつ、活動を拡大・活発化させている。

その軍事動向等については、わが国を含む地域と国際社会の安全保障上の強い懸念となっている。

○ 2020年度の中国の公表国防費は、約20兆2881億円

・ 30年間で約44倍、20年間で約11倍、10年間で約2.4倍

・ 2020年度の公表国防費は、日本の約4倍

※ 公表国防費には研究開発費や外国からの兵器調達費が含まれておらず、実際の国防支出は公表国防費よりも3兆3000億円以上多いとの分析もある。(米国防省議会報告、2019年5月)

### (2) 北朝鮮の核・ミサイル開発

過去6回の核実験を実施し、極めて速いスピードで弾道ミサイル開発を継続的に実施しており、このような北朝鮮の軍事動向は、わが国の安全に対する重大かつ差し迫った脅威となっている。

○ 北朝鮮による弾道ミサイル発射数・核実験回数

・ 金正日委員長

弾道ミサイル計16発

核実験 計2回(2006年、2009年)

・ 金正恩委員長

弾道ミサイル計88発

核実験 計4回(2013年、2016年2回、2017年)

### (3) ロシアは軍事活動活発化の傾向

核戦術を中心に軍事力の近代化に向けた取組を継続しており、北方領土を含む極東において軍事活動を活発化させる傾向にある。

○ ロシア軍機に対する緊急発進回数 268回(うち領空侵犯3件)

○ ロシア海軍艦艇の海峡通貨隻数 延べ隻数合計83隻

# 馬毛島に自衛隊施設を整備する必要性

南北に広大な南西地域の島嶼部において、

- ① 陸海空自衛隊が訓練・活動を行い得る施設
- ② 整備補給等後方支援における活動を行い得る施設
- ③ 米空母艦載機の着陸訓練(FCLP)の施設 が必要

馬毛島に自衛隊の訓練施設・緊急時の活動施設を整備することは、わが国の防衛上、極めて重要です。

- ① 陸海空自衛隊が訓練・活動を行い得る施設  
主に自衛隊の訓練で使用します。年間を通じて自衛隊が管理し、基地機能を維持管理するための要員が常駐します。

## 実施する可能性のある主な自衛隊の訓練



連続離着陸訓練  
(F-35,F-15,F-2等)



模擬艦艇発着艦訓練  
(F-35B)



不整地着陸訓練  
(C-130)



機動展開訓練  
(F-35,F-15,F-2,  
KC-767,C-2等)



アクション艇操縦訓練



離着水訓練及び  
救難訓練(US-2)



水陸両用訓練  
(AAV,アクション艇等)



救命生存訓練



ヘリコプター等からの  
展開訓練  
(CH-47,V-22)



空挺降投下訓練



災害対処訓練  
(UH-60)



PAC-3機動展開訓練

※上記は、現時点でのイメージであり、上記以外の装備品を使用した訓練を行う可能性があります。各訓練の実施時期・期間・規模等については、各自衛隊の計画の中で検討されます。

# FCLP(空母艦載機着陸訓練)とは

※FCLP(Field Carrier Landing Practice:空母艦載機着陸訓練)

**FCLPとは、空母出港前に空母艦載機パイロットの着艦資格を取得するために必要な訓練です。**



空母ロナルド・レーガン

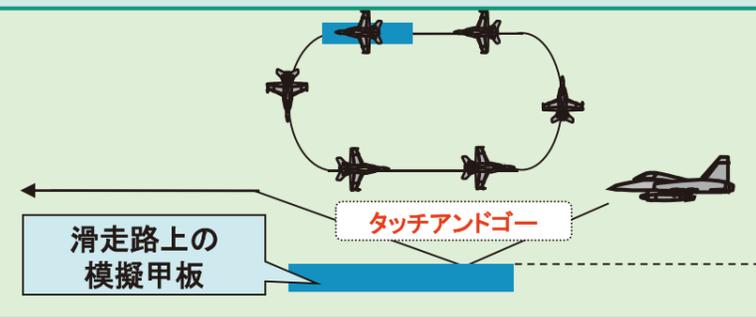
インド太平洋を中心に活動する米空母ロナルド・レーガンは、乗員の休養、空母の補給整備のため、年に数ヶ月横須賀に滞在します。



空母艦載機FA-18

港滞在中にパイロットの空母着艦資格が失効してしまうことから、空母停泊中にパイロットに資格を取得させるため行う訓練がFCLPです。

## FCLP実施イメージ図



※米軍は、馬毛島基地(仮称)に常駐するのではなく、FCLP訓練の際、一時的に滞在します。

## 艦上での着艦の様子※イメージ



FCLP訓練は、年間概ね1~2回を予定しています。現在硫黄島で実施されている訓練は1回当たり10日間程度で、訓練は日中から深夜にかけて実施します。1回の訓練において、米軍関係者が馬毛島に滞在する期間は、事前の準備等を含め約1ヶ月です。

## 年間の訓練スケジュール(イメージ)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月※	9月	10月	11月	12月

FCLP  
10日間程度  
準備を含め約1ヶ月

FCLP ※近年は夏に実施されないこともある。  
10日間程度  
準備を含め約1ヶ月

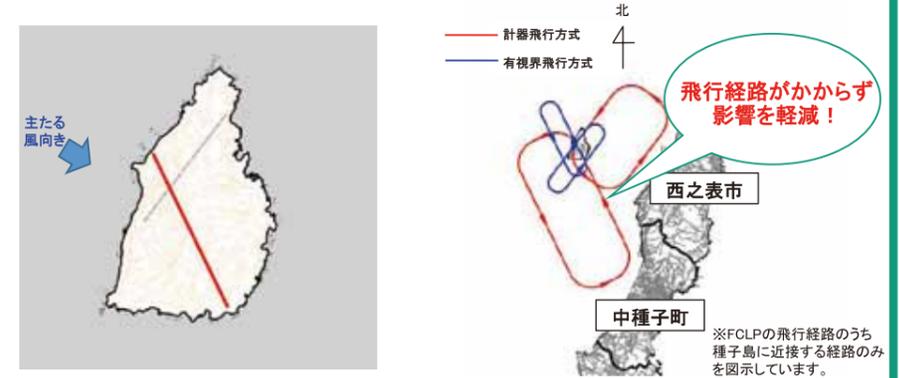
資料提供：防衛省

# 周辺環境への影響と対応

## 滑走路の位置と飛行経路

自衛隊や米軍の運用のうち、周辺環境に与える影響が大きいと思われる滑走路の位置とFCLPの飛行経路について検討しました。

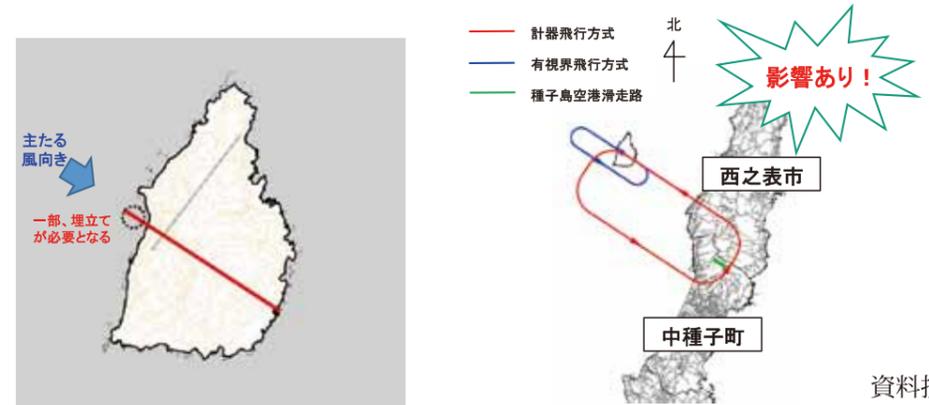
**種子島に可能な限り影響を与えないように、滑走路を設置します。**



**この配置により、埋立てが不要かつ海上に飛行経路を設定できます。**

## 参考

滑走路は主たる風向きを踏まえた向きに設置することが、最も望ましいとされています。種子島周辺では北西~西北西の風向きのため、主滑走路を種子島空港の滑走路と同じ向きに設置すると、以下のとおりになります。なお、主滑走路の向きを南北方向に近づけていくと、航空機は横風を受けやすくなり円滑な離着陸が妨げられます。



資料提供：防衛省

## 【防衛省の説明資料等によると】

- 部隊配備計画については  
陸海空自衛隊による訓練により、年間を通じて馬毛島を使用する計画である。また、整備補給等後方支援の施設としても機能させる。  
このため馬毛島に恒常的に勤務する隊員は150~200名程度を見込んでいる。
  - ・ 隊員及び家族は種子島内に整備する宿舎等に居住を想定している。
- 騒音の予測については  
発生する騒音は、現段階で正確に見積もることはできない。環境アセスメントにおいて、予測、評価を行う。(新聞報道によると、防衛省が戦闘機の試験飛行を行う検討に入ったとの情報もあります。)
- 地域の影響に対する国の取組については
  - ・ 再編交付金~影響の程度や事業の進捗状況等に応じて交付額や交付期間が決定
  - ・ 民生安定助成事業~周辺地域の住民の生活または事業活動の阻害が認められる場合、その障害を緩和するため、地方公共団体が行う施設の整備に対して助成を行うもの。
- 今後の流れについては
  - ・ 【現地調査】 ⇒ 【環境アセスメント】 ⇒ 【工事】 ⇒ 【運用開始】  
2019年1月~3月 2020年秋頃手続き (概ね4年程度)  
2020年1月~(実施中) 開始予定